

2024年度 事業計画

1、はじめに

(1) 事業開始にあたって

MBT (Medicine-Based Town 医学を基礎とするまちづくり) とは、「住居医学」と「MBE」(Medicine-Based Engineering 医学を基礎とする工学・産業) の体系の統合であり、超高齢社会に対応したまちづくりを行うと共に、医学の知識を基に新産業創生および地方創生、更には社会貢献活動を行うことを目的としている。

(2) 本法人の事業価値

1) MBE : Medicine-Based Engineering 医学を基礎とした新産業創生・新製品開発
すべての産業に医学の光をあて、介護・見守り・交通・製薬・生活支援・エネルギー・補完代替医療等々、超高齢社会における産業全体に関わり、連携し自由闊達な活動を展開することで、あらゆる産業に医学の叡智を注入しながら、異分野連携も含めた新産業創生や新製品開発に取り組む。

2) MBT : Medicine-Base Town 医学を基礎としたまちづくり

新産業創生・新製品開発成果の活用を含め、医学による価値を付与した超高齢社会に対応した新たな「まちづくり」を、企業や自治体等の連携で提案・実行する。

3) 医学を基礎とした社会貢献

昨今の新型コロナウイルスの世界的感染拡大、さらには希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者の苦境、団塊世代が後期高齢者となる超高齢社会において認知症患者の増大などのような、これら社会課題に対して、医学の専門知識を活かし、社会生活や心身の安心・安全の確保や啓発に向けた活動を推進する。

以上の事業価値を見出し、超高齢社会を乗り越え、新産業創生、地方創生、社会貢献を果たすために、2024年度の具体的な事業活動については、次に掲げるものを中心として取り組む。

2、具体的事業活動の概要

(1) MBT 事業活動

1) MBT コンソーシアム会員を対象にした会員会議・相談会・交流会の開催

2021年のコロナ禍拡大で途絶えていたが、MBT 運営方針の徹底や、奈良医大のニーズ・シーズの紹介、MBT の部会活動・分科会活動の諸活動やMBT 活動に関わる関連情報を、会員に報告し情報共有を行うことや会員の交流を促進することを狙いに、全体会員会議を、対面またはハイブリッド(対面+WEB)形式で計画する。また、その中で医学相談会や会員交流会も計画する。

2) 産業創生・社会貢献に向けての部会活動、分科会活動の積極的推進

表1に示すように、これまでの12部会、11分科会に、新たに13番目の部会を追加し

て、オープンベースの議論を通して、テーマ発掘や活動の深堀、事業化検討等を行う。

具体的には、新産業創出や新製品開発に向けての奈良医大との連携や企業の絞り込み、また開発費の確保に向けた国や都道府県等の補助金申請や特区の申請活動などを検討支援し推進を図る。これらのプロセスが円滑かつ有効に進展すると判断される事案に対しMBT コンソーシアムの予算面からも部会活動を支援する。部会は、現在の部会にとどまらず、産業創生、社会貢献を目指してタイムリーに新たな部会発足も目指す。

表 1.MBT コンソーシアム部会・分科会活動

No.	部会名	分科会名	活動概要	奈良医大関係者	関係会員企業
1	感染症部会	MBTコロナ患者見守り分科会	スマホアプリを用いた患者見守り実用化	笠原(敬) 教授他	KCN株
		MBT感染症外来分科会	コロナ感染予防 プレハブ型診察外来実用化	笠原(敬) 教授	大和リース株他
		MBTコロナ不活化分科会	オゾンなどによるコロナ除菌実用化	矢野教授	株タムラテコ他
		MBTリンク活用見守り分科会	MBT LINKを活用した患者見守り実用化	梅田研究教授	MBTリンク株
		MBTコロナ対策・企業相談分科会	企業のコロナ対策を医学の知識を提供して無料相談	笠原(敬)教授	日本経済新聞社他
2	食品衛生部会		食の評価・医学的検定		
3	アンチエイジング部会		認知症予防や進行評価		
4	通信部会		次世代通信応用システム実用化	梅田研究教授	富士通Japan 株他
5	万博テーマ部会		万博会場実証テーマ提案	細川担当教授	
6	ビッグデータ活用部会		ビッグデータとAI連携で新ビジネス創出		TOPPAN株他
7	スマートコミュニティ部会		再生エネルギー活用による新システム創出、環境改善		関西電力株他
8	医療福祉環境におけるアート研究部会		健康とウェルビーイング向上に有用なアートを研究		株健康都市デザイン研究所他
9	MBT研究所産学連携部会		幼児から高齢者までの健康見守り実用化	梅田研究教授	MBTリンク株
10	産学金連携・フリーディスカッション部会		奈良医大と会員企業とのシーズ・ニーズマッチング	細川担当教授	会員企業全般
11	難病克服部会	普及分科会	ロゴマーク付き協賛商品販売による普及活動		協賛企業41社
		セミナー分科会	難病に関わる現状の啓発活動	杉江教授	
		映画分科会	映像による難病の啓発活動	川口教授	
12	在宅遠隔医療部会	全国対応分科会	富裕層を対象にした全国ネットワーク対応型MBTモデルの検討	梅岡MBT講師	(医)梅華会
		地域支援分科会	奈良県中和地域の在宅医療支援を通して機材やサービス検討	西尾教授	エア・ウォーター株他
		在宅看護分科会	へき地を支える在宅医療ケアを支えるハード、サービス検討	小竹教授	株イムラ他
13	難聴克服・認知症予防部会		難聴は認知症発症リスクであり、難聴高齢者への軟骨伝導イヤホン活用研究や実証活動	細井理事長・学長	株CCHサウンド他

以下に、主要な部会の2024年度活動計画を示す。

① No.1 感染症部会

- ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2023年5月8日から5類感染症に移行するなど、コロナ禍が収束するに伴い、コロナ禍ピーク時に立ち上げた本部会の活動や役割も減少してきており、ほぼ休眠部会になってきた。
- ・しかしながら、新型コロナウイルスは根絶やしできなかったわけでもなく再燃の恐れも残しており、本部会を継続させて新たな非常時に備える。

- ② No.2 食品衛生部会、No.3 アンチエイジング部会
- ・本2つの部会は、超高齢社会において健康寿命延伸の役目を果たす取り組みとして2020年度に部会を設立したが、奈良医大の医学と会員企業のマッチングが叶わず、ほぼ休眠部会として残してきた。
 - ・2023年度の奈良医大に、本部会活動が予測できる研究テーマが生まれており、本年度は、奈良医大シーズと会員企業ニーズマッチングを図り、本部会活動が軌道に乗るよう取り組みを進める。
- ③ No.4 通信部会
- ・部会参加企業および連携して活動する奈良先端科学技術大学院大学は、通信事業のみならずDX事業に関するスキルや知見も豊富に保有している。種々デジタル事業課題の意見交換や検討ができる本部会の特性を活かして、奈良医大新キャンパスや医大周辺まちづくりの検討情報等を基にして、通信の有効性を活かした事業提案の可能性を引き続き検討する。加えて、これまで毎年参加している奈良県防災総合訓練に新たに提案できる防災、災害対策手段について検討する。
- ④ No.5 万博テーマ部会
- ・MBTは関西文化学術研究都市（通称：けいはんな学研都市）とともに2025年の大阪・関西万博の「協創パートナー」に名を連ねている。“いのち輝く未来づくりのための実証実験や実装”を、大阪・関西万博の開催時期に合わせて予定のけいはんな学研都市で行うサテライト万博について引き続き参加検討を行う。また、奈良医大との関係も深い東大阪市は2022年から「HANAZONO EXPO」を開催しており、奈良医大と連携してMBTコンソーシアムも、活動PRや開発成果物PRを兼ねて出展してきた。本年度も新たな提案を持って参加を検討する。
- ⑤ No.6 ビッグデータ活用部会
- ・日本は2008年をピークに世界でも類を見ない少子高齢化が進み、労働力不足が深刻な社会問題となっている一方で、2024年度からの働き方改革に関する法改正によって、運送・物流業界などの労働時間の上限設定などが大きな社会問題となっている。また医療現場においても2024年度から働き方改革の実現が求められていることから、参加会員企業のTOPPAN(株)は、現在その対策の一つとして、医療現場における生成AI技術の活用を検証している。AIクローン技術は、個人だけでなく社会そのものの生産性向上を実現し、これらの問題の打開を目指すということが期待されていることから、本部会において、医療周辺の分野でその可能性を検討する活動を推進していきたい。
- ⑥ No.7 スマートコミュニティ部会
- ・スマートコミュニティの基礎知識の醸成、先進事例の紹介、先進導入施設の見学会等を通じて、具体的な事業モデルの検討に繋げる。また、他の部会とも連携を図りエネルギーや通信インフラ等の構築を支援する。
 - ・2024年8月に「スマートコミュニティ先進事例の見学会」を開催。今年度は次世代型パーソナルモビリティの試乗会を開催予定。
- ⑦ No.8 医療福祉環境におけるアート研究部会
- ・奈良県立医科大学附属病院をはじめ医療者、医療施設や高齢者施設の事業者、病院建築に携わる設計士やゼネコン、有識者、アーティスト等を講師に、『アートフォーラム

～医療福祉環境におけるアートの可能性』と題し、オンラインフォーラムを開催する。その後、オンラインコンペティションを実施し、奈良県立医科大学附属病院をはじめ医療者、高齢者施設の介護職等も参画し、優秀作品を表彰し、医療施設や高齢者施設に良質なアートを継続的に提供していくエコシステムの構築を進める。

⑧ No.9 MBT 研究所産学連携部会

- ・生体×心理×環境×行動×・・・の統合データから個人のライフスタイルを評価し、ライフスタイルスコアを提示、健康アドバイスの最適化を検討する MBT リンクヘルスケアシステムを発展させる。その取り組みとして電力センサーを通して家電機器の使用状況から、素の在宅者のライフスタイルを分析し、遠隔からでも健康異常の発見ができるシステムの精度や完成度アップ目指し、地域ごとのデータベースを、全国の地方自治体や企業と連携して充実させる。

⑨ No.10 産学金連携・フリーディスカッション部会

- ・MBT 活動の狙いでもある産業創生をめざして、奈良医大の研究者が保有する研究成果や現場ニーズを聞き取り、会員企業への呼びかけやマッチングに関わる打ち合わせの場設定と議論を支援する。また、その場で出た課題や調査のフォロー、新たな議論の場の設定を行う。
- ・スタートアップ・エコシステム共創プログラムによる支援を活用し、本学発ベンチャーの創出・展開を支援する。

⑩ No.11 難病克服部会

- ・希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者の苦境を多くの人に理解いただく啓発活動として「難病克服キャンペーン」を社会貢献活動の一環で引き続き実施する。
- ・以下の3つの取り組みを継続して実施する。
 - i) 協賛企業の募集・・・キャンペーンの趣旨に賛同して、協賛キャンペーンロゴマークを自社商品に印刷やシール貼りする、またホームページなどでもキャンペーンをPRし支援してもらえ、等の協賛活動企業を募集（費用負担は発生しない）する。（2023年度末時点で41社・団体）
 - ii) 難病克服支援WEBセミナーの開催・・・難病に関わる研究者・医療介護者や患者支援者の活動を知らせ難病への理解を深めてもらうセミナーを年2回（9月、3月）に実施する。
 - iii) 難病克服支援映画祭の開催・・・「みんなで守るいのち」をテーマに短編映画作品を募集し、映像を通して難病の理解を深めてもらい患者や関係者を勇気づける映画祭を、第4回目も東京で開催を目指す（2025年1月18日日経ホールで予定）。また、これまでの3回の映画祭での入賞作品を、難病克服キャンペーンの趣旨に協賛して行われる全国各地域の映画祭などでも上映し、啓発活動を行う。

⑪ No.12 在宅遠隔医療部会

- ・在宅医療においては小型軽量で操作しやすい医療機器が望まれる。令和5年度には会員企業からの依頼を受け、奈良医大総合医療学教室の受託研究として医療従事者から見た在宅用医療機器の評価研究を実施しており、本年度も引き続き導入する上での課題と対応に関する分析を実施する。
- ・在宅看護の現場状況理解を進め、会員企業参加の可能性を検討する。

- ・在宅医療について、社会貢献やビジネスモデルが成り立つMBT独自モデルを引き続き検討する。

⑫ No.13 難聴克服・認知症予防部会（新設）

- ・後述の、社会貢献活動第3弾となる「難聴克服・認知症予防キャンペーン～高齢者が生き生きと活躍できる社会を目指して～」の具体的活動やイベント等を支援する取り組みを行う為に部会を新設し、本キャンペーンの成果につながる活動を模索する。
- ・難聴高齢者は会話や社会参加が少なくなることから認知症リスクが高まるとの報告もあり、奈良医大で発見された軟骨伝導イヤホンの活用による難聴克服・認知症予防の効果を見極める。

3) 社会貢献活動

① 「難病克服キャンペーン」

- ・No.11 難病克服部会で記述した活動を継続推進する。

② 「難聴克服・認知症予防キャンペーン～高齢者が生き生きと活躍できる社会を目指して～」

- ・No.13 難聴克服・認知症予防部会で記述した活動を推進する。

③ その他、

1) 経団連が主催する「地域協創アクションプログラム」に参加

本プログラムは、地域経済の持続可能な活性化に向けて様々な主体間での地域協創が必要として、経団連が地方創生の実現に向けた取り組み方針を示し、それに基づく様々な連携パートナーづくりを支援するものである。その中には10項目のプログラムが示され、その1つの「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」のテーマに、奈良県立医科大学とMBTコンソーシアムが連携先として参加している。医産連携による日本経済再生、自治体連携による地域活性化・地方創生、難病克服キャンペーン、在宅遠隔医療などで経団連会員との取り組みを提案する。

2) 奈良県が主催する「医大周辺まちづくり検討会」に参加

奈良県と橿原市は、奈良医大附属病院周辺に近鉄電車の新駅を誘致し、医大隣接の利点を活かした新駅設置による賑わいのある健康増進のまちづくりを目指して検討を進めている。その基本構想づくりに、奈良医大に加えて、まちづくりに参加した事業経験を保有する民間企業者の意見反映を期してMBTコンソーシアム会員企業の参加が要請されている。本年度も、近鉄ケーブルネットワーク(株)、大和リース(株)、大和ハウス工業(株)、富士通Japan(株)、関西電力(株)、TOPPAN(株)の6社が参加の予定。

4) 奈良医大発ベンチャー起業支援

奈良医大の大学運営方針として、奈良医大の研究成果を論文に仕上げること及び知財出願のみならず、“アントレプレナーシップ”をもって社会に貢献する奈良医大発ベンチャーによる研究成果事業化の勧め”が引き続き示されている。

この運営方針は、奈良医大と連携して“医学を基礎とした産業創生による社会貢献

“を謳う MBT コンソーシアム活動の狙いとも符合するので、奈良医大発ベンチャーの起業計画にも参画し、その事業性を見極める伴奏支援を行う。そして、1ベンチャー当たり 30 万円を上限として出資又は寄附を行う。

5) MBT ロゴマーク付与

MBT の活動理念を体し、エビデンスを有して医学的に正しいことが確認され、大きな社会貢献が期待される会員企業様の製品やサービスに対して、申請書に基づき第三者からなる審査委員会の審査を経て、



MBT ロゴマーク（右図）付与を承認する取り組みを継続実施する。

ロゴマーク使用実施契約において、使用実施料についても 2 者間協議で料率等を検討する。

<参考：これまで MBT ロゴマークを付与した案件一覧（18 社 19 件）>

MBT ロゴマーク使用許諾一覧（2024年3月6日現在）			
通番	許諾日	会社名	件名
1	2019.6.1	昭和西川株式会社	～耳石に優しい～睡眠頭位調節マットレス
2	2021.2.18	大和リース株式会社	MBT 感染症外来ユニット
3	2021.2.5	モード・ユニット工房株式会社	術中運動誘発電位（MEP）モニタリングに対応した弾性ストッキング
4	2021.2.5	株式会社ケアコム	波形連携ナースコールシステム（SafetyNet/MBT）
5	2021.2.18	レック株式会社	アルコールジェル手指消毒剤
6	2021.2.18	レック株式会社	アルコール配合ウエットシート
7	2021.3.8	ユーハ味覚糖株式会社	柿渋を使用したキャンディ
8	2021.3.8	カバヤ食品株式会社	柿渋を使用したキャンディ
9	2021.3.8	カンロ株式会社	柿渋を使用したキャンディ
10	2021.5.10	春日井製菓株式会社	柿渋を使用したキャンディ
11	2021.5.25	株式会社奈良ホテル	New Normal Party Plan
12	2021.6.25	グラストップ株式会社	ガラスコーティング剤「GT-Aa系」
13	2021.7.18	やまと真空工業株式会社	銅合金応用商品（マスク & 仕切り板）
14	2021.7.26	株式会社フジ医療器	トレビ・クリアゼロ（Fwo-3）
15	201.7.26	株式会社オーク製作所	スマートエキシマランプによるオゾン発生器
16	2021.8.3	有限会社サンスバル	バスター 8 10ppm 他4点
17	2021.12.22	ゼノン株式会社	ZENON 特殊アルカリ電解水（pH12.7）
18	2022.8.2	株式会社イムラ	奈良県吉野郡川上村の吉野杉を使った内装材および構造材の一般販売
19	2023.1.26	株式会社三笠	手指機能強化手袋

6) 各種の催しや展示会への参加

MBT 活動内容や活動成果を国内外の関係者に PR するため、学会や種々の催し、展示会等には積極的に参加する。

(2) MBT 広報宣伝活動

1) 「MBT ニュースレター」の発行

MBT の種々イベント、会員会議、部会や分科会の活動、等々の諸活動について、タイムリーな情報をニュースレターとしてまとめ、MBT コンソーシアム会員や奈良医大教職員やOB・OG、更にはMBT の活動に深い関心を持つ一般人の方々にも、メールや印刷配布を行う。

2) ジャーナル「MBT CONSORTIUM」の発行

「MBT ニュースレター」で紹介した情報の集約や、MBT 活動の特集記事など、MBT 活動に関わる関係諸情報などを冊子にまとめ、会員のみならず国内外の関係者に配布広報し、MBT 活動の理解を深めていただくこと、更には活動参加を呼び掛けることを狙いに、年2回 (Vol.15, Vol.16) の発刊を予定する。

3) イベント等に対応した広告の実施

MBT 活動で実施のイベントにおいて、MBT の活動の狙いや取り組み内容を、一般の皆様、さらには首都圏の官庁関係者や企業人などを対象に、費用対広告効果を見極めながら、新聞広告、SNS (X (旧 Twitter)、Facebook、Instagram 等の活用) 広告を実施する。また、活動の動画情報をホームページや YouTube にアップし紹介する。

4) デジタルサイネージの活用による広告の実施

会員企業のクオール(株)と連携して、全国の直営調剤薬局のデジタルサイネージを活用し“健康情報やMBT の活動情報の提供”を目的で実施する。

5) 会員掲示板の実施

会員間の情報交流 (新製品情報、会員ニーズ・シーズの紹介、会員からの連絡事項等) に一役を買い形で、メールベースの会員掲示板を実施。

6) その他、広報活動

MBT の活動が、地域にとどまらず全国レベルで知名度や活動範囲を広めていくことを狙いに、MBT 紹介資料や入会案内パンフレットを活用して会員の新規入会に向けた広報活動を実施する。

(3) MBT 運営活動 (奈良医大と連携し、本法人の事業運営を行う活動を含む)

1) 奈良医大への委託研究

MBT 活動の基礎となる種々研究、部会活動や個々の会員からの医学知識を必要とする相談対応への協力などを MBT 研究所に委託する。

2) 奈良医大との共同事業活動

奈良医大と本法人の双方に共通の利益をもたらす広報宣伝やイベントなどの諸活動等を実施する。

<参考：2023 年度共同事業活動>

2023/5 奈良医大医学科同窓会へMBT ジャーナル Vol.12 配布

2023/9、2024/3 難病克服支援 WEB セミナー（2 回実施分）

2024/1 難病克服支援 MBT 第 3 回映画祭

3) MBT の仲間づくり、輪の拡大

MBT 活動を国内外に広くお知らせし、活動内容の理解を得て認知度を上げることが、MBT の活動拡大や目的達成に繋がる。その取り組みとして、

① 産学連携活動、MBT 顧問活動、協賛企業募集活動等を通して会員数拡大を図る。

② 大きな社会貢献活動実施組織と連携して活動の輪を拡大する。

（事例：「よい仕事おこしフェア実行委員会（事務局：城南信用金庫）」との連携協定の活用）

以上

2024 年度収支予算計画

2024 年度MBTコンソーシアム予算計画

単位：千円

収入			支出		
科目	明細	2024年度 予算案	科目	明細	金額
繰越金		13,800	広告宣伝活動費	ジャーナル(年2回)	150
				その他広告 (新聞、チラシ印刷、SNS他)	50
					200
会費収入	180口×5万円	9,000	イベント費	会議費 (ZOOM契約、会場費他)	30
				各種展示会参加費	600
				部会・分科会活動費	400
				オープンミーティング	150
				難病WEBセミナー	750
				MBT映画祭	6,500
				MBT映画上映会 (けいはんな等)	500
				新規活動予備費	5,000
					13,930
事業補助収入		6,200	事業運営費	奈良医大研究委託費	500
				奈良医大施設借受費	70
				通信費・郵送費	60
				商標出願・登録費	70
				ロゴマーク審査謝金	80
				顧問報酬・交通費	400
				事務局人件費	3,000
				ベンチャー出資費 (30万円×2社)	600
				消耗品費	300
雑収入	ロゴマーク使用料	50	次年度繰越		9,840
合計		29,050	合計		29,050

奈良医大と
共同折半事業